

ミャンマーの民主主義を守るための IFSW アジア太平洋地域のアピール

IFSW ニュース 2021 年 3 月 15 日号

2021 年 2 月 1 日、ミャンマー国軍は強権を発動して 1 年間の緊急事態国家の宣言を行い、国民民主同盟（NLD）のアウンサンスー・チーと多数の政府高官、芸術家、記者らを逮捕した。

クーデターは 2020 年 11 月の総選挙においてアウンサンスー・チー率いる国民民主同盟（NLD）の地滑り的な勝利に続いて起こった。国軍は 11 月の総選挙の結果に不正があったと申し立てた。世界は、ミャンマー国民がヤンゴンやマンダレイやネピドーやその他の街々でデモを行い、民主的に選出された政府に権力を返すように要求している様子を見続けてきた。

国軍は強烈な弾圧を続行し、死者数は 70 人以上に及び、その多くが若者である。多数が負傷し、2000 人以上が不当に逮捕拘留されている。残忍な逮捕、拷問、夜間の襲撃、公立病院の占拠などがさらなる広がりを見せている。

国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）のアジア太平洋地域は、ミャンマー国軍がソーシャルワークの中心的価値である人権と社会正義に違反していることについて強く非難する。これらの価値は、社会のあらゆるレベルで持続可能で安全なコミュニティを築くために全力で参加することを公言しているソーシャルワーカーにとっての支柱である。持続可能で平和な社会は、「参加の権利の促進」や「自己決定権の促進」や「表現の自由」などの主要な原則が実現されて初めて到達可能である。

IFSW アジア太平洋地域は、民主主義のために戦う勇敢なミャンマー国民、並びに同僚であるミャンマーのソーシャルワーカーの味方であり、この戦いの渦中にあるミャンマー国民に対する支援を引き続き行う。さらに、われわれはすべての国家に対して、ミャンマーの民主主義が復興できるための緊急で活発な支援を行うよう要請する。一国の民主主義の毀損はすべての国の民主主義の毀損となる。

IFSW アジア太平洋地域 会長 ローズ・ヘンダーソン

副会長 スリガネシュ MV